

# 高知憲法速報

No.226 2010. 5. 19

発行:高知憲法会議事務局 088-872-3406

編集人 事務局 徳弘嘉孝

## 改憲手続き法施行に際して

2007年5月安倍内閣のもとで改憲手続き法が強行可決成立し、凍結期間の3年が過ぎて今年の5月18日施行日を迎えました。私達は「改憲手続き法反対闘争本部」を12団体で結成し、6回の昼休み集会、プラスタ宣言、議員への要請行動、街頭宣伝、宣伝カー運行など様々な取り組みで問題点を指摘し法案成立に反対しました。法律は成立しましたが国民的な批判の中、参議院で18項目の付帯決議がついています。付帯決議を再録します。3年を経て進展がないのは国民が要求していないことの現れです。欠陥法と言われてきたことがよく判ります。凍結、廃案が求められます。

### \*日本国憲法の改正手続きに関する法律案に対する付帯決議 平成19年5月11日 参議院特別委員会

1. 国民投票の対象・範囲については、憲法審査会においてその意義及び必要性の有無等について十分な検討を加え、適切な措置を講じるように努めること。

1. 成年年齢に関する公職選挙法、民法等の関連法令については、十分に国民の意見を反映させて検討を加えるとともに、本法施行までに必要な法制上の措置を完了するように努めること。

1. 憲法改正原案の発議に当り、内容に関する関連性の判断は、その判断基準を明らかにするとともに、外部有識者の意見も踏まえ、適切かつ慎重に行うこと。

1. 国民投票の期日に関する議決について両院の議決の不一致が生じた場合の調整について必要な措置を講じること。

1. 国会による発議の公示と中央選挙管理会による投票期日の公示は、同日の官報により実施できるよう努めること。

1. 低投票率により憲法改正の正当性に疑義が生じないよう、憲法審査会において本法施行までに最低投票率制度の意義・是非について検討を加えること。

1. 在外投票については、投票の機会が十分に保障されるよう、万全の措置を講じること。

1. 国民投票広報協議会の運営に際しては、要旨の作成、賛成意見、反対意見の集約に当り、外部有識者の知見等を活用し、客観性、正確性、中立性、公正性が確保されるように十分に留意すること。

1. 国民投票広報は、発議後可能な限り早期に投票権者の元に確実に届くように配慮するとともに、国民の情報入手手段が多様化されている実態にかんがみ、公式サイトを設置するなど周知手段を工夫すること。

1. 国民投票の結果告示においては、棄権の意思が明確に表示されるよう、白票の数も明示するものとする。

1. 公務員等及び教育者の地位利用による国民投票運動の規制については、意見表明の自由、学問の自由、教育の自由等を侵害することとならないよう特に慎重な運用を図るとともに、禁止される行為と許容される行為を明確化するなど、その基準と表現を検討すること。

1. 罰則について、構成要件の明確化を図るなどの観点から検討を加え、必要な法制上の措置も含めて検討すること。

1. テレビ・ラジオの有料広告規制については、公平性を確保するためのメディア関係者の自主的な努力を尊重するとともに、本法施行までに必要な検討を加えること。

1. 罰則の運用に当っては、公職選挙運動の規制との峻別に留意するとともに、国民の憲法改正に関する意見表明・運動等が委縮し制約されることのないよう慎重に運用すること。

1. 憲法審査会においては、いわゆる凍結期間である三年間は、憲法調査会報告書で指摘された課題等について十分な調査を行うこと。

1. 憲法審査会における審査手続及び運営については、憲法改正原案の重要性にかんがみ、定足数や議決要件等を明定するとともに、その審議に当っては、少数会派にも十分配慮すること。

1. 憲法改正の重要性にかんがみ、憲法審査会においては、国民への情報提供に努め、また、国民の意見を反映するよう、公聴会の実施、請願審査の充実等に努めること。

1. 合同審査会の開催に当っては、衆参各院の独立性、自主性にかんがみ、各院の意思を十分尊重すること。  
右決議する。